

東北電力株式会社との資本業務提携のお知らせ

～「東北発のサステナブル農業」を展開し、スマート社会の実現に貢献～

プランツラボラトリー株式会社（東京都中央区：代表取締役 湯川敦之、以下「当社」）は東北電力株式会社（宮城県仙台市、取締役社長 樋口 康二郎(※)、以下「東北電力」）との資本業務提携契約を締結し、「東北発のサステナブル農業」の展開による、スマート社会の実現に向けた支援をすることとしました。

※樋口の「樋」は、一点しんによろ

当社は、完全人工光型の屋内農場で使用する電力の安定供給や環境にやさしい自然エネルギー利用にむけて、エネルギー分野において優れた技術力やノウハウを保有する東北電力と連携し、お客様へさらなる付加価値の提供を進めていきます。

近年、農業界においては「農業従事者の減少・高齢化」「自然災害激甚化に伴う被害規模の拡大」「気候変動による影響（不安定な生産量や品質）」など、農業の持続可能性に係る課題が顕在化しています。このような状況を背景に、当社では2017年より福島イノベーションセンターを構え県内の農業者と連携するなど東北地方での事業を開始し、同地方での持続可能な「環境にやさしい農業」「人にやさしい農業」の構築に取り組み始めています。

2019年からは、東北電力のEMSである「エグゼムズ」を当社の省エネ型屋内農場システムである「PUTFARM」に導入することにより東北電力との連携を開始しておりますが、東北電力のエネルギーに関する技術・知見と、当社の「PUTFARM」の強みである「小型で安価かつ場所を選ばず設置できる」「天候・自然災害に左右されない安定して栽培できる」といった特徴を組み合わせることで「創・省エネ屋内農場システム」（以下「本システム」）という新たなソリューションシステムを開発し、より環境や農業従事者にとってやさしい形で年間を通じて安定した農作物の栽培を実現していきます。

当社は東北電力とともに、本システムの有用性を確認しながら、東北6県および新潟県のスーパーなどの小売事業者等に対し、本システムによる野菜などの生産・販売（店産店消）を提案していくことに加え、本システムを導入した地元農家の卸売先の販路拡大にも協力し、連携拡大を図っていきます。これにより、地元農家・小売事業者・東北電力・当社が地域一体となったサプライチェーンを構築し、「サステナブル農業」の具現化に積極的に取り組んでいきます。これは他エリアでも類を見ない特徴的で新しい取り組みであり、東北モデルとして展開していくことで、サステナブル農業を通じたスマート社会の実現に貢献していきます。

なお、本システムを活用したCO2ゼロエミッション実現に向けた東北地方第1プロジェクトは、来春には生産した野菜を出荷する予定であり、他の東北・新潟でも導入を拡大してまいります。また、プランツラボラトリーは全国で地域パートナーを募集していきます。

本件についてのお問い合わせは、下記メールアドレスにお願いいたします。

info@plantslaboratory.com